

(仮称)自治基本条例を考える会

(会議要旨 第4回行政分科会)

日 時：平成20年8月9日(土) 13:30～16:00
場 所：尾西生涯学習センター 5F 会議室B
出席者：自治基本条例を考える会委員 7名
ファシリテーター 石井伸弘
事務局(企画政策課職員) 2名

枠組みと項目

大項目	行政
小項目	首長の役割と責務

会議のまとめ(修正事項)

2 望ましい首長像

元) 自治体経営の原則に則り、効率的な政策ができる人

修正) 迅速・効率的な政策ができる人

議論のプロセス

自治体経営という言葉の定義をめぐって

- ・ 自治体は会社経営と同じように考えるべき
- ・ 自治体は会社とは行動原理が異なるので、会社経営とは同じとはいえない。
- ・ 従って、自治体経営という言葉を用いることは合意できなかった。
- ・ 行政サービスの内容・性質から、家庭経営(方針)と考えた方がよい。

自治体経営の目標・指標

- ・ 市民の満足度の向上が究極的な目標である。企業でいえばCS(顧客満足度)の向上。
- ・ 客観的な指標があると良い。
- ・ できれば一宮市民による絶対的な評価ではなく、相対的な他都市との比較などの指標がベンチマークとして欲しい。
- ・ 絶対的な評価については、第6次総合計画でとり始めている。

枠組みと項目

大項目	行政
小項目	執行機関の役割と責務

会議のまとめ（修正事項）

1 執行機関の役割について

元) 執行機関の役割として重要なものは、セーフティネット（経済的困窮者に対して、最低限の生活を続けられるように救済する社会保障制度）の機能である。

修正) 執行機関の役割として必須なものは、セーフティネット（経済的困窮者に対して、最低限の生活を続けられるように救済する社会保障）の機能である。

元) 行政に過大な期待をすることはもう無理がある。NPO や、コミュニティ組織が動く必要がある。

修正) 行政に過大な期待をすることは限度がある。市民の意識を変え、NPO や、コミュニティ組織が動く必要がある。

3 一宮市として自律するために必要なこと

元) 一宮市として自律するために必要なこと

修正) 地方分権について

枠組みと項目

大項目	行政
小項目	職員の役割・責務

会議のまとめ

1 理想的な職員像とは

全体の奉仕者であるという心構えがある

第一にやる気があること。その上で、市民の視点・相手の立場に立って考え・行動できる市民が主人公であることを理解し、市民とともに考え、協働でまちをつくることのできる一方的に説明するのではなく、市民の声をきちんと聞く

自ら研鑽すること

2 職員の能力向上のために必要な組織・仕組み

幅広い部門が経験できること

職員のアイディア・やる気が発揮できる、発揮しやすい組織が必要。

チームで機能し、成果をあげられるような組織・仕組みが必要。

適材適所がきちんと行われている

自己申告による異動なども有効ではないか。

組織の効率化を進めるための別途機関が必要ではないか。（例として効率化委員会など）

職員の能力ややる気を生かすも殺すも首長次第。

議論のプロセス

現状認識

- ・ 以前はだいぶひどかったが、職員の意識や、待遇などはだいぶ改善しているように思われる。
- ・ 縦割りの弊害も出ているように思われる。

理想的な職員像とは

- ・ 政策立案能力を高めて欲しい。具体的には、市長が考えた方針をよりよいものとして具体化できる能力を高めて欲しい。
- ・ 地方分権が進み、職員に求められることも高度化しているが、それに対応できる人。
- ・ 民間企業における顧客が、自治体における納税者。そのことをわかって仕事できる人。
- ・ 経験や能力を活かし、退職しても地域のために活動している人。

職員の能力向上のために必要な組織・仕組み

- ・ 30代で部長になれるような仕組みが作れないか。現在の年功序列の仕組みは、減点主義になってしまうが、加点主義にできないか。
- ・ 能力主義的な人事考課も方法の一つ。
- ・ 役所の内部において、暇な人と、忙しい人の差が激しい。仕事量と、配置が不適正な面があるのではないか。民間企業では、適性人員と組織の仕事量を測るための手法として、様々な分析手法が開発・実施されている。自治体でも行ってはどうか。
- ・ 職員が能力を発揮できるよう、機動的な組織改変が必要。
- ・ 職員採用の条件に、知識や学力だけではなく、市民共感力を重視すべき。

枠組みと項目

大項目	行政
小項目	執行機関の組織

会議のまとめ

- 1 理想的な組織像
機能的で効率的な組織。
女性や障害者がもっと登用されていること
- 2 組織力向上のためのアイデア
役所の改革の為にアイデアをもっと市民からもらったらよい。
銀行などで支店長クラスが行っている、ロビーでの御用聞きを課長クラスがやってはどうか。
市民ニーズをダイレクトに役職者が知ることができることは重要なこと。

議論のプロセス

組織力向上のためのアイデア

- ・ 課長が開庁の際、来庁者にあいさつしたらどうか
- ・ 市役所の職員が自宅で市民よろず相談所のようなことができないか。(子ども110番の家と同じ様な位置づけで。) それによって、職員が地域での役割を感じることができる。
- ・ 定年延長しても働きやすい職場

枠組みと項目

大項目	行政
小項目	行政手続

会議のまとめ

市民の立場で考えるのが基本であり、役所の都合を優先しない。

例えば税金の還付の時効などがあるが、市民の立場に立ったら時効はおかしなこと。

国でも年金の未払いなどの時効を取りやめている。

国県の権限を市町村へ委ねないと、手続きも向上しない。地方分権を進める必要がある。

窓口・届出・申請書類が分かりやすく、庁内でウロウロしなくても済む事。

単独の申請ではなく、複数の事案がまたがる申請などでは、市民が分かりにくく、庁内で困ることがある。